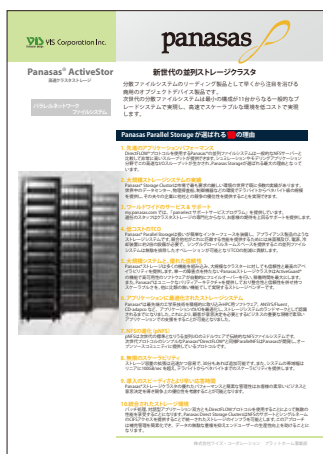


関西学研都市情報系研究機関の導入事例

クラスタストレージシステム

panasas 

Panasas ActiveStor



大規模な音声データとテキストファイル保有する当研究機関は多くのストレージと処理のためのCPUを必要としています。CPU群から高速なアクセスを可能とするデータベースを構築するにはPanasas社のActiveStorが最適と判断されたからです。

大規模で高速なファイル共有システムと帯域幅拡張のニーズに柔軟に対応した製品は商用製品の中にはActiveStor以外に見当たらず最適な判断をされたと思います。

当研究機関が導入済みのPanasas ActiveStorは現在80TBを超え、100台を超える計算システムからアクセスを受けてもマウントポイントにグローバルシングルネームスペースを採用したPanasas ActiveStorはデータの重複、クロスマウントの必要性を最小限に抑えた運用形態からTCOの低減に貢献していると言えます。

耐障害性が高度に考慮され、高速でしかもペタサイズを超える規模までの実績を持つPanFS（ファイルシステム）とPanasasのRAID機構は障害後の復旧時間に対しても高速です。

他のストレージシステムと全く異なる点としては導入される分野がいつもスーパーコンピュータなどの計算処理負荷が高い分野と言う点です。Panasas社の製品は大量のデータと巨大なバンド幅に対応可能であり、オブジェクトストレージ分野では商用のサポートが存在する数少ない製品としてユーザーに選択されています。